

主要事業NO.1 ふくしまの誰一人取り残さない教育体制整備事業（R5～R7）

～地域で共に学び、共に生きる教育の推進～

特別支援教育課

現状・課題

- 小学校、中学校、高等学校において、特別な支援を必要としている児童生徒が増加している。
- ・ 小・中学校の通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童生徒 ⇒ 小学校・中学校:8.8%
- ・ 高等学校に在籍する特別な支援が必要な生徒 ⇒ 2.2%
- ・ 小・中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒数の増加 → R4比:449名増 75学級増
H19比:約3.8倍 655学級増
- ・ 通級による指導を受けている児童生徒数の増加 ⇒ R4比:183名増 H19比:約4.2倍

多様性を力にかえ、個性を大切にしながら、誰一人取り残さない地域をつくる → **Well-beingの実現へ**

- 各学校において学びの場は整備され、個別の教育支援計画も作成されるようになってきたが、就学の仕組みや手続き、教育課程、個別の教育支援計画の活用には課題がある。また、乳幼児期から学校卒業後の間に、支援と学びが途切れてしまうことがある。

目標

乳幼児期から学校卒業後まで、切れ目のない支援と学びを引継ぎ、子どもや保護者を支える体制を整える。

内容

地域支援体制整備事業 1-I

- ・「特別支援教育アドバイザー」を特別支援学校の地域支援センターに配置
- ・双葉地区における特別な配慮が必要な児童生徒への体制整備のための支援員をふたば支援学校に1名配置。

- ・「入院児童生徒支援員」を病弱支援学校の地域支援センターに配置
- ・長期入院中の児童生徒に対する遠隔教育の推進

病弱特別支援学校2校に各1名配置(計2名)

特別支援教育研修推進事業 1-II

- ・県内の研修の実施状況やニーズ等の調査の実施
- ・研修推進アドバイザーの活用
- ・事業連絡協議会の開催
- ・障がい特性や認知特性等に係る研修の実施

取組

<各教育事務所域内>

- 継続: 地域支援チーム戦略・連携会議(年3回)
- ※ 地域支援の体制づくりを戦略的に進める



就学前

小学校

中学校

高校

卒業後

支える
つなぐ

支える
つなぐ



市町村
小・中・高校

特別支援教育アドバイザーによる支援

双葉地区支援員によるサポート

小・中・高校における特別支援教育に係る研修の充実



特別支援学校

病気療養中の児童生徒に対するICT機器を活用した遠隔教育による学習への支援

入院児童生徒支援員によるサポート